

第199回（令和2年7月12日施行）

上級 商業簿記

問題1は、セール・アンド・リースバック取引の借手の会計処理についての理解を問う問題です。リース物件の借手は資産の売却とリース取引を同時に行うことになるので、そのリース物件の売却価格を取得原価として通常のファイナンス・リースの借手の処理を行います。ただし、それに加えて、以下の2点についての処理が必要です。まず、売却時の売却損益は未実現損益とみなされ、長期前受収益ないし長期前払費用として繰り延べ処理することです。次にこの繰り延べた損益を、每期償却し、決算時の減価償却費に加減することです。詳細は、『全経簿記上級商業簿記・会計学テキスト(第7版)』（公式テキスト）の102-104頁を参照してください。

問題2は、株主資本等変動計算書の作成と、作成に必要な株主資本等に係る処理の理解を問う問題です。剰余金の処分は、それに先立って新株予約権の行使にともなって新株が発行されている点に注意して、準備金の積立額を計算する必要があります。株主資本等変動計算書の作成については、公式テキストのXII章を、また関連する論点として株主資本等に係る処理についてはX章を参照してください。

問題3は、決算整理前残高試算表から閉鎖残高勘定と損益勘定を導出する過去問と同様の問題です。銀行勘定調整表、債権・債務、商品売買、貸倒引当金、有価証券、固定資産、社債（打歩発行・社債発行差金勘定処理）、収益・費用の見越し・繰延べなどについて出題しています。各論点については、公式テキストの該当箇所を参照してください。

第199回（令和2年7月12日施行）

上級 会計学

問題1は、会計基準に関する全般的な正誤問題です。1.は企業会計原則・第二・一・A, 2.は企業会計原則注解18, 3.は連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準・第二・一・2, 4.は固定資産の減損に係る会計基準・二・2・(1), 5.は自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準・第9項, 6.は棚卸資産の評価に関する会計基準・第7項及び第10項, 7.は資産除去債務に関する会計基準・第7項, 8.は会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準・第17項, 第19項及び第20項, 9.は包括利益の表示に関する会計基準・第11項, 10.は退職給付に関する会計基準・第22項の理解を問うています。詳しくは、『全経簿記上級商業簿記・会計学テキスト(第7版)』の関連箇所を参照してください。

問題2は、ストック・オプション等に関する会計基準における、権利確定日以前の会計処理に関する第4項と、権利確定日以後の会計処理に関する第8項及び第9項についての理解を問うています。具体的な会計処理については、『全経簿記上級商業簿記・会計学テキスト(第7版)』Ⅷ・4・(4)を参照してください。

問題3は、財務諸表分析に関する指標（ROA, ROE, 純資産負債比率, 流動比率, 当座比率）についての理解を問うています。詳しくは、『全経簿記上級商業簿記・会計学テキスト(第7版)』XX・2及び3を参照してください。

第199回（令和2年7月12日施行）

上級 工業簿記

問題1は、等級別総合原価計算の問題です。組別計算に近い方法での計算です。投入量の積数での連結原価の配分を問うています。また、減損が発生した場合、正常減損費と異常減損費の処理の違い、定点発生と平均発生での正常減損費の良品への負担のさせ方の違いについて問うています。（公式テキスト65頁～69頁，89頁）

問題2は、工場会計の独立の問題です。本問では工場側から見て内部取引その他がどのように仕訳できるのかを問うています。（公式テキスト211頁以降）

問題3は、標準原価計算における差異分析、特に材料配合差異と材料歩留差異の問題です。これは基本的な論点を問うています。（公式テキスト102頁）

第199回（令和2年7月12日施行）

上級 原価計算

問題1は、M&Aにおける会計情報の利用を題材とする問題です。上級原価計算の試験においてこれまで出題されていないテーマを扱うものです。

問1から問3は企業価値の評価に関する問題です。問1は加重平均資本コスト(WACC)の計算方法についての理解を問う問題です。計算方法について理解していることを前提に、逆算によって自己資本コストを推定することを要求しています。問2は、年間フリーキャッシュフローを計算することを要求しています。初めて出題するテーマなので、フリーキャッシュフローの計算式を与えています。問3は、将来キャッシュフローに関する典型的な仮定にもとづいて企業価値を計算する問題です。

問4および問5は、買収に関する意思決定の問題です。本質的にはプロジェクト投資の意思決定問題と同様です。問4ではシナジー効果を考慮した差額キャッシュフローを計算し、問5では問4の結果を受けて正味現在価値による意思決定を要求しています。

問題2は、CVP分析に関する問題です。この問題の特徴はセグメント情報を利用した分析となっている点です。問1および問2はCVP分析の基本を問うものです。問3は共通固定費の回収に個別セグメントがどのように貢献するのかを扱っています。個別セグメントにおける操業度をあげることによって共通固定費を回収するという考え方を背景とした問です。また、問4は、来期に関する少し詳細な予測情報にもとづいて、来期の損益分岐点を算定する問題です。

問題3は、合理的意思決定の基礎にある原価概念である機会原価についての理解を問うものです。